中国からパンダ寄贈

～台湾に贈る背景と事情

Ｓ．Ｋ記者（台湾）

パンダ贈呈の中国発表

中国は５月３日、台湾政府を頭越しして大陸へ渡り、台湾総意の代表と自らうたって帰途についた野党第一党の連戦・台湾国民党主席に対して、ジャイアントパンダのつがいを贈呈すると発表した。

贈呈の背景

これは、かつては中国大陸を支配し、国共内戦に敗れて 1949 年に台湾へ逃れたが、現段階では台湾の野党に凋落した国民党と、大陸中国を一党で独裁し続ける共産党とが交流した、いわば『エセトップ会談』の成果を、中国側が都合良く評価したものだといわれる。

台湾側の評価

中国が友好の証として相手側にパンダを贈ることは従来からの常套手段であるが、これについて台湾の陳水扁総統は、国際条約で保護されているパンダの受け入れには慎重な姿勢を示している。更に中国は、反共を国是とする一方で互いに『抗日』には共通の認識を持つ連戦・中国国民党主席を取り込むことで、米国と台湾海峡の平和的解決を挙げた日本を牽制し、『我々は親日だが元来は中華民族だ』とされる台湾本省人の心を分断させる狙いが見て取れる。

日中関係との絡み

中国は、日本の町村信孝外務大臣が先月末にニューヨークで「台湾は日米安保条約の対象地域だ」と発言したことを受けて、激しい不満と内政干渉の抗議をその前日５月２日に行なっていた。

パンダのカップル

　中国は台湾に贈るパンダを 2005 年 12 月に決めていた。健康状態やパンダの相性などを考慮した上、1 歳 4 カ月のオスと、1 歳 5 カ月のメスを選んだ。記者会見では 2 頭のパンダの幼名の募集要項も発表された。そして、中国は２８日、台湾への贈呈を予定しているパンダのカップルの名前が「団団」（トアントアン）と「円円」（ユエンユエン）に決まったと発表した。中国語で「団円」には「家族の再会」の意味がある。つまり、台湾と中国の「団円」を願ってのことである。
パンダの贈呈は、単純な問題だと私は思うが、政治がからむと、複雑になってしまうようである。結果がどうなるかまだわからないが、私としては、台湾に帰った時、

パンダが動物園で他の動物たちと一緒に見ることができるよう早く実現してほしいと願っている。

(2006/03/06)



中国・四川省パンダ研究センター